

2026年第1回函館競馬特別レース名解説

<第1日>

○奥尻特別

奥尻（おくしり）は、北海道渡島半島の西方にある面積約143km²の島。名は、アイヌ語の「イク・シリ（向こうの島）」に由来するといわれている。豊富な水産資源に恵まれ「夢の島」「宝の島」と呼ばれてきた。また、オホーツク文化の南下を示す青苗砂丘遺跡をはじめ、縄文時代早期から擦文時代にかけての遺跡や遺物が発見されている。

○松前特別

松前（まつまえ）は、北海道南西端にある半島、また同半島にある町。江戸時代には、最後の日本式城郭として築城された福山城（松前城）を中心に、日本最北の城下町として栄えた。北海道の郷土料理である松前漬や、松前公園の桜が有名。

○サマースプリントシリーズ 函館スプリントステークス（GⅢ）

全6戦で実施されるサマースプリントシリーズの第1戦。

本競走は、1994年に『札幌スプリントステークス』として創設された重賞競走。札幌と函館の開催日割の変更に伴い、1997年より函館競馬場で実施されるようになり、レース名も現在の名称に変更された。

<第2日>

○八雲特別

八雲（やくも）は、北海道南西部にある、日本で唯一太平洋と日本海の両方に面している町。遊楽部川下流の八雲平野は北海道の酪農先進地域である。また、北海道を代表する土産品「木彫りの熊」発祥の地でもある。

○ウインズ津軽20周年記念 津軽海峡特別

本競走は、ウインズ津軽20周年を記念して実施される。

津軽海峡（つがるかいきょう）は、本州と北海道の間の海峡。津軽暖流が西から東へ流れている。海底下約100mの地中には、全長53.85km（海底部23.3km）の青函トンネルが通っている。

○函館日刊スポーツ杯

日刊スポーツは、日刊スポーツ新聞社より発行されているスポーツ紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第3日>

○下北半島特別

下北半島（しもきたはんとう）は、青森県北東部に位置する津軽海峡に突き出した斧の形の半島。西に張り出す半島の主部には、日本三大霊山のひとつに数えられる恐山がある。恐山のカルデラを中心とする一帯は、下北半島国定公園に属する。

○駒ヶ岳特別

駒ヶ岳（こまがたけ）は、森町・鹿部町・七飯町にまたがる標高1,131mの山。大沼国定公園に位置し、南麓に大沼・小沼・蓴菜（じゅんさい）沼などの堰止め湖、南東麓には鹿部などの温泉地がある。

○STV杯

STVは、札幌市に本社を置く札幌テレビ放送の略称。テレビは1959年開局で、NNN（日本テレビ）系列、ラジオは1962年開局でNRN（文化放送・ニッポン放送）系列。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第4日>

○遊楽部特別

遊楽部（ゆうらっぷ）は、北海道南西部に位置する八雲町の地名。名は、アイヌ語の「ユー・ラブ（温泉の流れる）」に由来するといわれている。遊楽部岳や遊楽部川などがあり、冬には国の天然記念物のオオワシやオジロワシが数多く飛来する。

○檜山特別

檜山（ひやま）は、北海道南西部の振興局。離島の奥尻町を含む全7町で構成され、渡島半島の日本海沿いに位置する。振興局所在地である江差町は、かつてニシン漁業が盛んで、特に江戸後期から明治にかけての繁栄は、「江差の五月は江戸にもない」と謳われた。

○UHB杯

UHBは、札幌市に本社を置く北海道文化放送の略称。1972年開局で、FNS（フジテレビ）系列。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第5日>

○長万部特別

長万部（おしゃまんべ）は、北海道南西部の町。名は、アイヌ語の「オシャマンペ（カレイ・ヒラメがたくさんとれる川口）」に由来するといわれている。沿岸漁業や酪農が盛んで、「かにめし」が特産品として有名。

○洞爺湖特別

洞爺湖（とうやこ）は、北海道南西部にあるカルデラ湖。名は、アイヌ語の「トヤ（湖畔）」に由来するといわれている。支笏洞爺国立公園に属し、周囲には有珠山、昭和新山などがある。2008年には、第34回主要国首脳会議（北海道洞爺湖サミット）が開催された。

○青函ステークス

青函（せいかん）は、青森市の「青」と函館市の「函」の合成名称。両市を結ぶ交通機関などに冠せられ、以前は青函連絡船が両市を直接結んでいた。現在は青函トンネルが津軽海峡の海底を貫いて本州と北海道を鉄道で結んでおり、1989年にはその開業1周年を記念して、青森・函館ツインシティ提携の盟約が締結された。

<第6日>

○臥牛山特別

臥牛山（がぎゅうざん）は、函館山の別称で、函館市の南端に位置する標高334mの山。名は牛が寝そべっているように見えることに由来するといわれている。亀田半島との間に陸繁島を形成し、南端に大鼻岬、東端に立待岬がある。山から望む夜景はナポリ、香港とともに世界三大夜景のひとつに数えられている。

○渡島特別

渡島（おしま）は、北海道南西部にある半島、また同半島南部の総合振興局。かつては松前藩の所在地でもあった。道内では温暖な地域で、その気候を活かしてビニールハウスなどの施設を利用した野菜栽培が盛んである。

○函館競馬場開設130周年記念 サマー2000シリーズ 函館記念（GⅢ）

本競走は、函館競馬場開設130周年を記念して実施される。

全5戦で実施されるサマー2000シリーズの第1戦。

本競走は、1965年に芝2400mのハンデキャップ競走として創設された重賞競走。1968年に2000mとなり、1994年から別定重量戦、1997年より再びハンデキャップ戦で実施されている。

函館（はこだて）は、北海道南西部、渡島半島の南東端にある市。名は、アイヌ語の「ウス・ケシ（湾の端）」から宇須岸と呼ばれていた地に、蝦夷地へ逃れてきた津軽の豪族が館を建て、この館が箱の形に見えたことに由来するといわれている。漁業が盛んで、西洋建築群をはじめとする豊かな景観を呈し、観光地としても人気がある。

○湯の川温泉特別

湯の川温泉（ゆのかわおんせん）は、函館市南西部にある温泉。登別温泉、定山溪温泉とともに北海道三大温泉のひとつに数えられる。箱館戦争では、旧幕府軍を率いた榎本武揚が傷病兵を湯治させた。

<第7日>

○恵山特別

恵山（えさん）は、函館市東部、渡島半島南東端にある標高618mの山。太平洋に突き出すように位置する活火山で、現在も噴気活動が見られる。名は、アイヌ語の「イエサン（火を吹き溶岩が流れ落ちる）」に由来するといわれている。

○竜飛崎特別

竜飛崎（たっぴざき）は、青森県津軽半島北端、津軽海峡に突出する岬。対岸にある北海道の白神岬と青函トンネルによって結ばれている。

○TVh杯

TVhは、札幌市に本社を置くテレビ北海道の略称。1989年開局で、TXN（テレビ東京）系列。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第8日>

○立待岬特別

立待岬（たちまちみさき）は、函館山南麓にある岬。かつては異国船を監視する要衝であった。岬に至る山道には石川啄木一族の墓があり、その先には宮崎郁雨、与謝野鉄幹・晶子夫妻の歌碑がある。好天時には、津軽海峡を一望できる。

○横津岳特別

横津岳（よこつだけ）は、北海道南西部、亀田郡七飯町にある標高1,167mの火山。恵山道立自然公園に属する。ハイマツやコケモモ、シラタマノキなどの約400種の樹木や草花が分布している。

○大沼ステークス（L）

大沼（おおぬま）は、北海道南西部、七飯（ななえ）町にある駒ヶ岳の火山噴火でできた堰止め湖。周辺には小沼、蓴菜（じゅんさい）沼があり、大沼国定公園に含まれる。2012年には、道南で初めてラムサール条約登録湿地に指定された。

<第9日>

○北斗特別

北斗（ほくと）は、北海道南西部、渡島半島南部の市。2006年に上磯郡上磯町と亀田郡大野町が合併して誕生した。法亀寺しだれ桜や松前藩戸切地陣屋跡桜並木など、桜の名所が多く存在する。

○HTB杯

HTBは、札幌市に本社を置く北海道テレビ放送の略称。1968年開局で、ANN（テレビ朝日）系列。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○五稜郭ステークス

五稜郭（ごりょうかく）は、函館市にある日本で最初の西洋式平城跡の通称。名は、外形が星のような五稜形をしていることに由来する。箱館の開港とロシアの南下政策などに対応するため、箱館奉行所として蘭学者・武田斐三郎が設計し、江戸時代末期に完成した。戊辰戦争最後の戦いである箱館戦争の舞台となったことでも知られているが、現在は五稜郭公園として整備されており、桜の名所としても有名。国の特別史跡に指定されている。

<第10日>

○北海ハンデキャップ

北海（ほっかい）は、日本列島北方の海域を指す呼び名。1869年に、かつての五畿七道である東海道や南海道に倣う形で、蝦夷を北海道と改称した。

○噴火湾特別

噴火湾（ふんかわん）は、内浦湾の別称で、北海道の南西部と渡島半島によって、北・西・南の三方を囲まれた湾。名は周囲に活火山が多いことに由来する。イルカ、ホエールウォッチングが楽しめる。また、ホタテ貝の養殖や、サケ、スケトウダラ漁が盛んなことで有名。

○巴賞

巴（ともえ）は、水が渦巻くような模様。渡島半島南端にある函館湾は、その形が巴状になっているところから「巴湾」とも呼ばれる。

<第11日>

○湯浜特別

湯浜（ゆのはま）は、函館市南西部の地名。名は、湯の川温泉の海岸部であることに由来する。南は津軽海峡に面し、国道278号が東西に走る住宅地域。1936年に現在の湯浜町となった。

○潮騒特別

潮騒（しおさい）は、潮が満ちるときに寄せ来る波が立てる音。「しおざい」ともいう。函館競馬場は、JRAの競馬場の中で唯一、スタンドから海を望むことができる。

○デルマーサラブレッドクラブ賞マリーンステークス

本競走は、デルマー競馬場との間で実施される交換競走。

デルマー競馬場は、アメリカ合衆国カリフォルニア州デルマーに位置する、アメリカを代表するリゾート競馬場。函館競馬場と同様、スタンドから海を望むことができる。

マリーン（Marine）は、「海の」「海産の」「航海用」を意味する英語。

<第12日>

○かもめ島特別

かもめ島は、北海道南西部、江差町にある海拔20m、周囲約2.6kmの小島。名は、かもめが羽を広げたように見えることに由来する。檜山道立自然公園の特別区域に指定されており、海水浴・釣り・キャンプなどを目的とした観光客が多く訪れる。

○駒場特別

駒場（こまば）は、函館市南西部の地名。函館競馬場の所在地。1875年に催された函館招魂社（現・函館護国神社）の祭典競馬が、函館における競馬の始まりとされる。その後、1896年に柏野（現・駒場町）に競馬場が建設され、幾度かの改修を経て現在の函館競馬場となった。

○函館2歳ステークス（GⅢ）

本競走は、函館競馬の2歳チャンピオン決定戦として1969年に創設された重賞競走。1997年に札幌と函館の開催日割が入れ替わったことにより、世代最初の重賞競走として早期デビュー馬が目標にするレースとなっている。